

# 今福線レポート

桑野 浩之

## 1. はじめに

今年で今福線研究分科会 3 年目の参加となりました。今年度の活動は、「広浜鉄道今福線シンポジウム」決定のサプライズに夢が膨らむ中での、来年（もう今年ですが）のシンポジウムに向けての活動になりました。

簡単ですが、今年度の活動を報告します。

## 2. 広浜鉄道今福線シンポジウム（仮称）開催決定

平成 26 年 2 月に今福線研究分科会が現存している今福線の橋梁群やトンネル群の遺構の保存を浜田市長に要望したところ、市長が観光資源として今福線の観光ルート化とシンポジウムを提案したことにより、「広浜鉄道今福線シンポジウム」の開催が決定しました。

ただただ先人の技術者が残した土木遺産を鉄道マニアのみならず一般の人たちにも知ってもらいたいとの目的で始まった今福線研究分科会による今福線マップ作りが、一歩踏み出して大きな方向へと進み始めました。このシンポジウムは、浜田市との合同によるもので、観光的な意味合いが大きく、土木遺産を多くの一般の人に見てもらい土木の素晴らしさを知ってもらおうという本来の趣旨とは若干異なりますが、土木遺産をアピールできることはどちらも同じですし、アピールの場としては最高の場と思います。

## 3. シンポジウムに向けての今福線研究分科会の活動

### (1) 第 1 回活動（H26 年 7 月 12 日）

第 1 回目の活動は、1.昨年度成果の報告、2.今後の課題、活動内容についてでした。1.の昨年度の成果については、今福線マップを再編成し、技術士会 HP にアップした内容でした。今福線マップについてはいろいろな人の協力を基に大変すばらしいマップが完成したと思っています。2.の今年度の課題、活動内容については、

- ①マップの更新、どのようなタイミングで更新するか。
- ②今福線シンポジウムへの参画 浜田市との連携
- ③弘済会への補助金申請 手持ちマップの作成

でした。②については、今年の 6 月 11 日に今福線研究分科会の代表 2 名と浜田市観光交流課との打ち合わせが下記の項目で行われており、その内容はどれも魅力的なものでした。

1. 全体会議立ち上げの経緯説明とお願い
2. 関連情報

### 3.全体会議の開催

#### 4. 関連行事・施設と今後の課題等

浜田市との打ち合わせの内容の説明の中で、今年の6月1日に広浜鉄道の道のりを大型観光バスでたどる観光ツアーの実施では定員50名に対し即満員状態になったとの話は、今年開催のシンポジウムや今後の今福線マップの活用についての手ごたえを感じました。

#### (2) シンポジウムに向けての第1回全体会議への参加（H26年7月29日）

7月29日に広浜鉄道今福線シンポジウム（仮称）開催についての第1回全体会議に参加しました。メンバーは浜田市役所7名、各自治会4名、まちづくり(推進)委員会6名、島根県立大学講師1名、島根県技術士会9名計27名で、各自治会やまちづくり委員会からは、マップにない個所や、道路の整備ができていないとか、予算要求、経済効果等々現実的で活発な意見が出ました。また、「広浜鉄道の建設をめぐる時代背景の整理」と題した島根県立大学 西藤先生の話はシンポジウムの内容が膨らむ話でした。平成27年も明け、実際シンポジウムまで7ヶ月しかなく課題は山積ですが、広浜鉄道今福線を島根県のみならず全国へ発信できるビッグチャンスであり、また技術士会の存在をアピールできる場でもあることを考えると自然と力が入りました。

#### (3) 第2回活動（H26年11月15日～16日）

第2回目の活動は、1.シンポジウムに向けての実行委員会の内容や現地整備の報告等、2.新聞への連載、3.現地確認でした。

新聞への連載についてはH27年1月より「山陰中央新報」へ「広浜鉄道」について連載されることとなりました。

新聞は知名度を上げる最大の得策であり大いに期待しています。

次の日は、参加メンバーで観光場所となる今福線の現場確認を行いました。こんな民家の裏側にどのような方法で工事したのだろうかとの疑問の中、仮設道路らしき跡地を発見した時は、施工当時にタイムスリップした気持ちになりみんなで純粋に興奮しました。



#### 4. おわりに

マップ作成から始まった今福線研究分科会が思わぬ方向へと発展して行き、気合が入った一年間の活動でした。今後は、今福線を一般の方々に大いにアピールし、合わせて技術士の知名度も上げられるように活動していけたらと思います。